

# 第3部 伝統と文化

## 第1章 史跡と文化財

### 1 名東区内のみどころ

昔と現代が鮮やかにクロスする「香流川コース」、戦国武将ゆかりの地を訪れる「柴田勝家コース」、緑と静寂・安らぎの小径「高針・牧野ヶ池コース」の史跡散策路のみどころを中心に、併せてその周辺の神社・仏閣、史跡、文化施設などを紹介します。

#### ⌘ 神社

- ① 大石神社 (牝石)
- ② 猪子石神社 (牡石)
- ③ 和示良神社
- ④ 神明社 (猪子石)
- ⑤ 神明社 (藤森)
- ⑥ 貴船社 (東一社)
- ⑦ 貴船神社 (西一社)
- ⑧ 日吉神社
- ⑨ 高牟神社
- ⑩ 平和が丘神社
- ⑪ 三徳龍神

#### 卍 寺院

- ⑫ 薬師寺
- ⑬ 月心寺
- ⑭ 法乗院
- ⑮ 了玄院
- ⑯ 十六菩薩地藏堂
- ⑰ 神蔵寺
- ⑱ 明德寺
- ⑲ 観音寺
- ⑳ 本成寺
- ㉑ 東勝寺
- ㉒ 済松寺
- ㉓ 蓮教寺
- ㉔ 善光寺
- ㉕ 瑞光寺
- ㉖ 珉光院
- ㉗ 毘沙門寺
- ㉘ 法妙寺
- ㉙ 傳光院
- ㉚ 法輪寺
- ㉛ 正敬寺

#### ● 史跡・名所・施設

- ㉜ 神明社資料館
- ㉝ 明德公園 (魚釣り場)
- ㉞ 名古屋サンプラザ
- ㉟ 名東ふれあい広場
- ㊱ 名東図書館
- ㊲ 名東社会教育センター
- ㊳ 身体障害者スポーツセンター
- ㊴ 猪高緑地
- ㊵ 勝野太郎左衛門頌徳碑
- ㊶ 牧野ヶ池
- ㊷ 楽陶館
- ㊸ 衣の民俗館
- ㊹ 宮嶋考古資料館



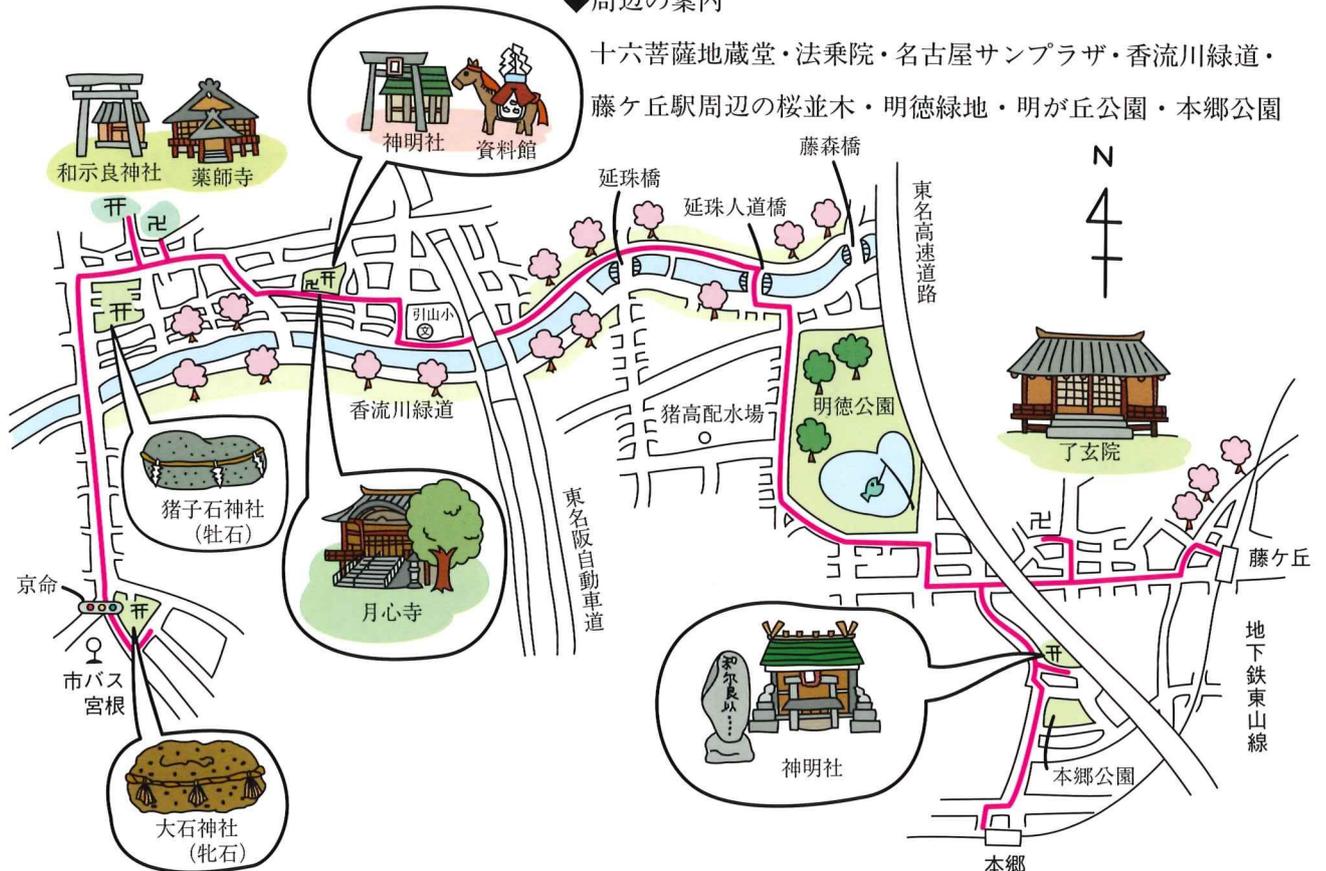
## 2 史跡散策路とその周辺

### (1) 昔と現代が鮮やかにクロス 「香流川コース」とその周辺

#### ◆コースの案内 (約7km)

バス停宮根 — 大石神社 — 猪子石神社 — 和示良神社 — 薬師寺 — 月心寺 —  
 — 神明社(猪子石) — 神明社資料館 — 了玄院 — 地下鉄藤ヶ丘駅  
 — 神明社(藤森) — 地下鉄本郷駅

#### ◆周辺の案内



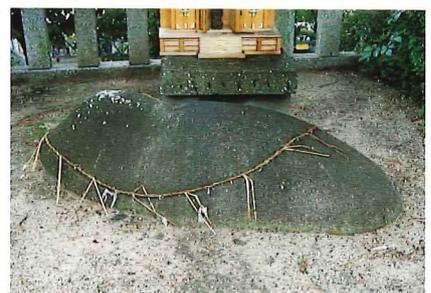
#### 大石神社 (山の手一丁目) と猪子石神社 (香坂)

大石神社は猪子石公園の隣にあります。牝石は礫岩であり猪には似ていませんが、牡石とともに猪子石の地名の由来となったといわれています。小石をたくさん付けていて、「守り石」とか「子持石」と慕われ、安産の靈験あらたかと信じられて来ました。猪子石神社は香坂の住宅街の一角にあります。牡石は猪に良く似た2m弱の花崗岩です。触るとたたりがあるとされ、神聖視されています。昔は、旧暦8月1日に香流川よ



牝石

り北に住む人は牡石のまわりで、南に住む人は牝石のまわりで夜半まで踊りぬいたそうです。



牡石

### 和示良神社（猪高町大字猪子石原）

猪子石原の氏神様です。創始は明らかではありませんが、明治41年に猪子石原字西ノ切にあった浅間神社（祭神 木花開耶姫命）と、字欠下にあった山ノ神社（祭神 大山祇神）を合祀して村社としました。



和示良神社

### 薬師寺（猪高町大字猪子石原）

曹洞宗。弘化4年に恵雲座主が名古屋古渡から住居をこの地に移して自ら堂主になったのがこのお寺のはじまりです。本尊の薬師如来座像は秘仏で普段は見る事ができません。境内には西国33番観世音石像をはじめ、明治の教育者、原栄吾先生の碑文などがあります。



薬師寺

### 松嶽山月心寺（神月町）

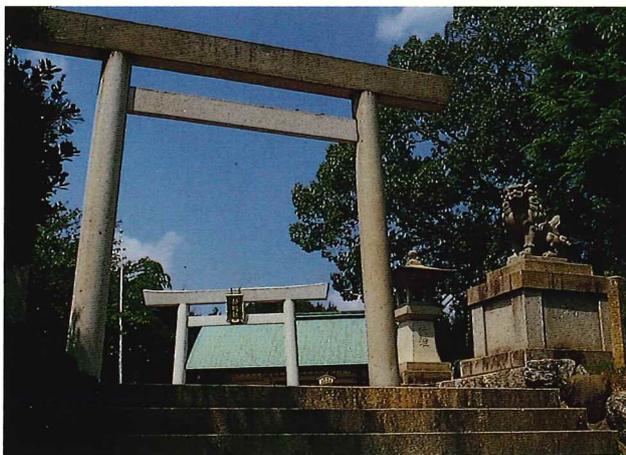
曹洞宗。昔猪子石村西脇に延命寺という天台宗の寺がありました。慶安2年に蔵福寺と改名して猪子石村如来道に移し、寛文2年に現在地に移り曹洞宗に改宗し、寺号を松嶽山月心寺として大永寺（守山区）の末寺になりました。境内にある観音堂は明治18年に、現在の蓬来小学校の場所にあった蓬莱の観音様を堂宇とともに移転したものです。観音堂には、十一面観音立像、千手観世音像、西国1番より33番霊所の観世音像が安置してあります。この寺は名古屋城東観世音33か所霊場の20番札所です。現在は香流保育園を併設しています。



月心寺

### 神明社（神月町）

猪子石の氏神様で、末社には猪子石神社、大石神社



神明社

があります。創始は明らかではありませんが、安永2年に香流川のほとりから現在の場所に移されました。

### 神明社資料館（神月町）

昭和62年に神明社の東隣に、猪子石土地区画整理事業の完成を記念して、立派な「神明社資料館」が建てられました。資料館には、土地区画整理事業の資料や、馬の塔、棒の手の資料などが展示されています。



神明社資料館

### 中田山了玄院（高柳町）

曹洞宗。文明2年に藤森城主小関三五郎と上社城主加藤勘三郎が開主となり、大永寺の明嶽良哲和尚を開山として創建されたお寺です。地下鉄本郷駅の北にありましたが、昭和51年7月に現在地に移転しました。このお寺には、村に古くから祀られていた木像の「延命子安地藏」が二体ありますが、この地藏は安産に靈験があるといわれ、遠方からの参拝人もあったそうです。



了玄院

### 神明社（本郷一丁目）

昔から、藤森一帯（本郷、藤が丘、豊が丘）の氏神様として敬われています。創始は明らかではありませんが、初めは現在地より約360m西方の低地にありました。境内の西側には、旧地にあった「和尔良以神旧墟」と彫られた小さな石碑がありますが、藤森には昔から「おにら」「わにら」「うにら」という守護神が祀られていたと伝えられています。



神明社

工事のオりの犠牲者を供養するための地藏といわれて来ましたが、背中には、幕末に名古屋城内で起きた、「青松葉事件」の処刑者の名前が記されているのが発見されました。地藏の由来については、詳しいことは分かっていません。

### 十六菩薩地藏堂（明徳公園）

明徳池の南の林の中に、陶製の地藏を祀った地藏堂があります。これらの地藏は木曾三川の宝歴治水



十六菩薩地藏堂



明が丘公園

香流川緑道

緑道は、緑豊かな楽しく歩くことのできる人間性を重視した「本来の道」で、街にゆとりと潤いをもたらすものです。

「香流川緑道」は、長久手町境から矢田川合流点までの両岸で約8 kmです。水と緑に接し、散策にサイクリングにと楽しまれています。春、満開の桜が見事です。



藤が丘の桜並木

名古屋サンプラザ（藤里町）  
教養、研修、娯楽、スポーツなど多方面に利用できる、しゃれた美しい建物です。



名古屋サンプラザ



香流川緑道

藤ヶ丘駅周辺の桜並木（藤が丘）  
約400本の桜が咲きほこります。藤が丘商店街では、毎年「桜まつり」を行っています。



明德池（猪高町大字猪子石字藤森）



法乗院（照が丘）



本郷公園（本郷一丁目）

(2) 戦国武将ゆかりの地を訪ねて 「柴田勝家コース」とその周辺

◆コースの案内 (約5.2km)

地下鉄一社駅 — 貴船神社 — 神蔵寺 — 明德寺 — 十王堂 — 貴船社 —  
 — 観音寺 — 猪高村役場跡 — 日吉神社 — 地下鉄上社駅

◆周辺の案内

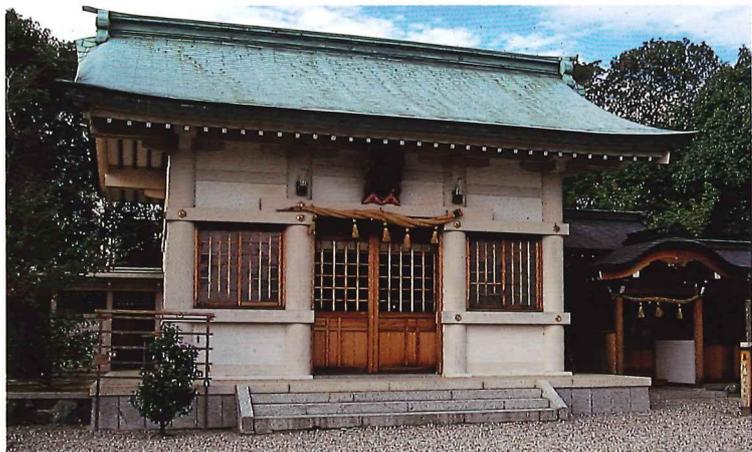
本成寺  
 猪高緑地



猪高村役場跡の碑

貴船神社 (一社三丁目)

天正年間、郷土の英傑柴田勝家公が、越前北ノ庄城で最後を迎えるにあたって、郷里を懐かしみ一振りの刀を家臣を通じて一色、上社、下社の総代に渡しました。この形見を3村の中央に祀り氏神と崇めていたのを、文化3年頃に3か所に分祀したのがこの神社の始まりといわれています。秋祭りには、氏子の安泰と五穀豊穰を祈って、「馬の塔」を奉獻し、<sup>おまんこ</sup> 検藤流棒の手、新影流鎗の手が奉納されていました。



貴船神社

### 龍華山神蔵寺（一社三丁目）

曹洞宗のお寺です。永正2年に足利義尚の家臣、柴田勝重によって一色城内に創建されましたが、小牧・長久手の合戦のおりに一色城とともに客殿を消失してしまいました。その後、御器所の龍興寺から空巖和尚が来て再興、正徳3年に龍興山神蔵寺と称して、龍興寺の末寺となりました。享保19年に現在地に移り、明和6年には客殿を建立し、以後山号を龍華山と改めました。明治37年には観音石像33体を祀り、以来観音山とも呼ばれています。



神蔵寺

### 正咄山明德寺（陸前町）

真宗高田派のお寺です。明德2年に明見寺として創建され、慶長元年に明德寺と改めて高田派に改宗したと伝えられています。このお寺は柴田勝家とゆかりが深く、寺宝に柴田勝家像、勝家に関する文献などがあります。山門前に下社城址、柴田勝家公誕生地の石碑が建っています。



明德寺

### 十王堂（明德寺）

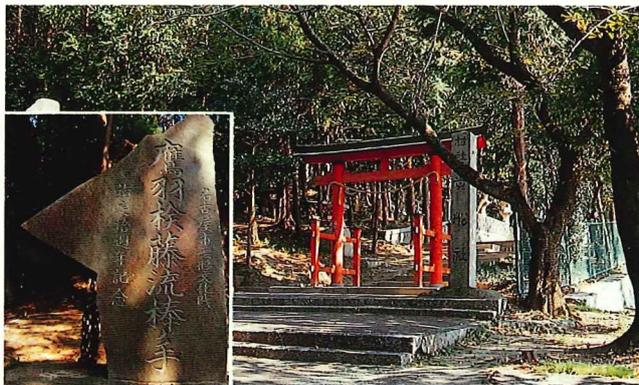
明德寺本堂の左にある十王堂は昔、悪疫の平癒祈願のために建てられたといわれ、十王信仰による木像彩色の十王像（市指定民俗文化財）が祀られています。毎年8月24日には十王堂祭が行われます。



十王像

### 貴船社（貴船二丁目）

昔、武内宿禰がこの地の荒れた田畑を見て、水神罔象女命を祭るようと白羽の矢を一本授けられ、矢白



棒の手の碑

貴船社

神社を建立しました。祠は慶長年間の暴風雨で倒壊しましたが、明德寺の僧義春が村人を説き、御神体を護り山に祠を建てたのが貴船社の始まりといわれています。毎年10月10日には「鷹羽検藤流棒の手」（市指定無形民俗文化財）と馬の塔おまんこに使われる豪華な「大鳥毛馬標具及び馬具」（市指定民俗文化財）が披露されます。

### 万松山観音寺（上社三丁目）

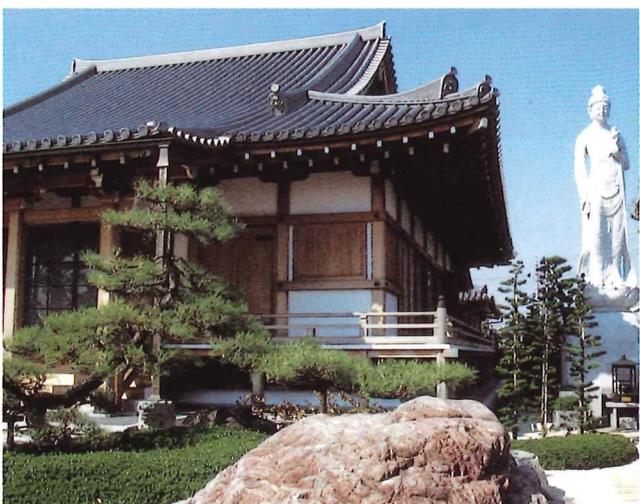
臨済宗妙心寺派のお寺です。養老年間に行基が十一面観音を彫刻し、堂宇を建立し万松山円福寺と称したのがこのお寺の始まりです。その後衰微、再建を繰り返しましたが、寛文7年に上社の地頭、小瀬新右衛門による再建のときから、万松山観音寺と称しています。境内の観音堂には、カヤの寄木造りの十一面観音座像があり17年ごとに開帳され、先回は昭和55年でした。名古屋城東観世音33か所霊場の21番札所です。



観音寺

### 寿延山本成寺（上菅一丁目）

日蓮宗。江戸時代初期の万治3年に寿量院日政上人を開山として東区小川町の東に創建されたお寺です。以後3度の大火に見舞われましたが、その都度再建されました。昭和26年に東桜に移転した後、昭和61年に現在地に移転しました。鎌倉時代の建築様式を備えた本堂、仏掌殿などを5年間かけて完成しました。境内には高さ4.5mの御影石一本造りの聖観音像があります。法華経にちなんで「霊山浄土」と命名された観賞式の庭園が見事です。



本成寺

### 日吉神社（上社二丁目）

創始は明らかではありませんが、古くから上社地区の氏神様とされ、「日吉山王さん」と呼ばれ親しまれています。昭和40年に氏子の奉賛により社殿が改装されました。区画整理によって周囲の環境がすっかり変わった中で、境内はかつての丘陵地の姿をそのまま残しています。



日吉神社



猪高緑地

(3) 緑と静寂、安らぎの小径 「高針・牧野ケ池コース」とその周辺

◆コースの案内 (約5 km)

バス停山の神 — 神丘公園 — (デッコ池) — 東勝寺 — 済松寺 — 高牟神社 —  
— 蓮教寺 — 宮嶋考古資料館 — 牧野ケ池 — (勝野太郎左衛門頌徳碑) — バス停梅森坂口



◆周辺の案内

牧野ケ池緑地の桜  
中馬街道  
信濃馬の宿跡  
善光寺



東勝寺

伝忠山東勝寺 (高針一丁目)



神丘公園

真宗大谷派のお寺です。伝忠坊という天台宗の寺を、高針城主加藤勘三郎の弟の加藤勘衛門が、屋敷内に移築して東勝寺を開きました。木仏本尊の裏には「清蔵坊開基栄宝高針村」とありますが、清蔵坊というのは寺にあった草庵の名前です。境内にはクロガネモチ、クロマツの保存樹があります。また、東勝寺のお灸は、諸病に卓効のある名灸として知られています。



濟松寺

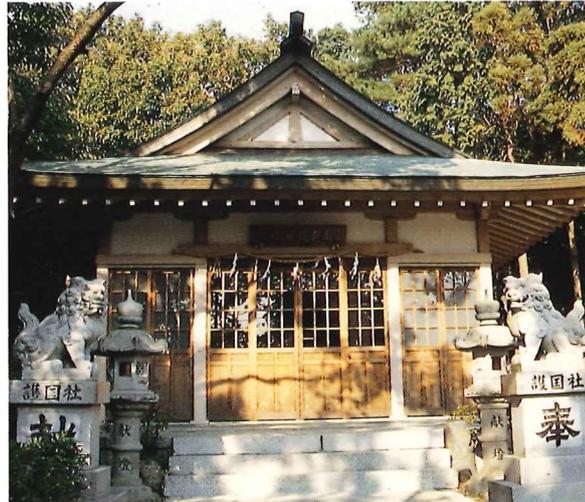
### 大龍山濟松寺（高針二丁目）

臨濟宗妙心寺派のお寺です。花園法王が諸国に禪宗の布教を命じたころの創建といわれています。始め瑞松院と称していたのを、享保3年に濟松寺と改めました。後年無住となったのを、知多郡大府の鷹羽知観尼が再興しました。境内には、室町時代の作と思われる道祖神（石像）がありましたが、現在は牧の原小学校南の西山説教所に移されました。歴代の庵主はお針、茶道、華道などを通じ子女の啓発につとめ、昭和27年には花園保育園を開設しました。

### 高牟神社（高針二丁目）

高針の氏神様です。創始は明らかではありませんが、延喜式内の神社と伝えられています。八幡神社と称していましたが、昭和25年に現在の社号に改号しました。社宝に春岱師作の狛犬一対があります。境内には牧野ヶ池の建設に尽力した勝野太郎左衛門を祀る敬徳殿（護国社）や馬の塔に使われる「大鳥毛馬標及び馬具」（市指定民俗文化財）などが保存されている高針文化財保存庫などがあり、秋の祭礼には棒の手が奉納されています。

### 高牟神社（平成6年10月撮影）



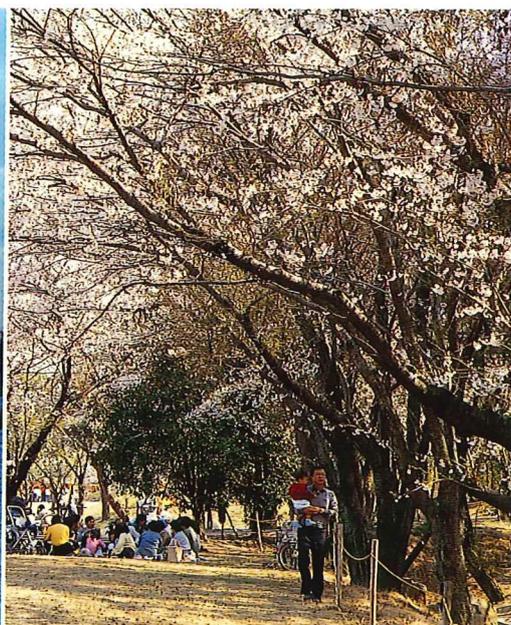
こまいぬ  
狛犬

### 法雲山蓮教寺（高針四丁目）

真宗大谷派のお寺です。長徳年間（約1千年前）に源頼光が尾張守に任ぜられたときの創建といわれています。創建当時は天台宗に属し、高針山と号していましたがたびたび寺号は変わり、蓮教寺となったのは元和3年のことです。永禄4年に現在の宗派に改められました。本尊は慈覚大師作の阿弥陀如来立像です。また寺宝の「釈迦八相涅槃図」は幅二間長さ三間の彩色大画幅です。境内にはクロマツ、クスノキ、アベマキの保存樹があります。



蓮教寺



牧野ヶ池(緑地)



ありし日の中馬街道と信濃馬の宿跡

**善光寺 (梅森坂一丁目)**

無宗派単立のお寺です。昭和38年に長野の善光寺の連絡所としてはじまり、昭和39年に本堂が完成しました。昭和51年からは単立の宗教法人となりました。本尊は一光三尊阿弥陀如来で、一つの後光の中に阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩が立っています。この寺には昭和32年にタイ国政府より、日タイ友好の印として日本に渡った仏舎利が、昭和44年から安置されています。仏法の守り神として本尊を守護する四天王（東・持国天王、南・増長天王、西・広目天王、北・多聞天王）像は現代の佛師・江里宗平氏の作です。



善光寺

(4) 「史跡散策路とその周辺」区域以外の案内

◆案内

平和が丘神社・珉光院・瑞光寺・三徳龍神・毘沙門寺・法妙寺・傳光院・法輪寺・正敬寺

平和が丘神社（平和が丘三丁目）

昭和25年に、この地域の氏神様として建立され、昭和48年に現在の建物が完成しました。海拔88mの高さがあり名東区の東部地方の眺望を楽しむことができます。



平和が丘神社

四宝山珉光院（平和が丘三丁目）

真宗大谷派のお寺です。伊勢国桑名郡長島にあった天台宗の円通大乘寺が貞永元年に尾張国海東郡萱津村に移転され、嘉禎元年に当時の住職、善教房照慶が親鸞上人と出会い改宗して現在の宗派となりました。昭和48年に中区から現在の地に移転しました。本尊は恵心僧都作の木像、阿弥陀如来立像です。七百数十年の歴史があり、数多くの法宝物があります。また珉光幼稚園を併設し子供達の教育にもあたっています。



珉光院



瑞光寺

功德山瑞光寺（平和が丘四丁目）

単立のお寺です。善光寺東山別院として昭和45年に建てられました。本尊は善光寺三尊仏（善光寺白如来）です。建立当時、この地方は開発途上であり住民の必要性を考えて建立されたということです。



三徳龍神

三徳龍神（名東本通）

西山住宅バス停から西へ約250mほど歩いた道路の北側に面していますが、祠は道路から5mほど下がった所にあります。昔は龍神池がありその池の中の小島に祠があって短い橋が掛かっていました。三徳とは天・地・人の徳を表しています。



毘沙門寺

**慈覚山法妙寺（亀の井一丁目）**

日蓮宗のお寺です。昭和49年に創建されました。昭和53年に出来た多宝塔は三層になっていて仏・法・僧を表しています。

**法灯山傳光院（名東本町）**

浄土宗のお寺です。当初清洲の須賀町にあって、永禄年間に中区鉄砲町に移転し、昭和35年に現在地に移転しました。本尊は阿弥陀如来です。境内にある五輪塔は紫式部の侍女越後が式部の死を弔うために建てたものと言われています。



法輪寺

**黒部山正敬寺（平和が丘二丁目）**

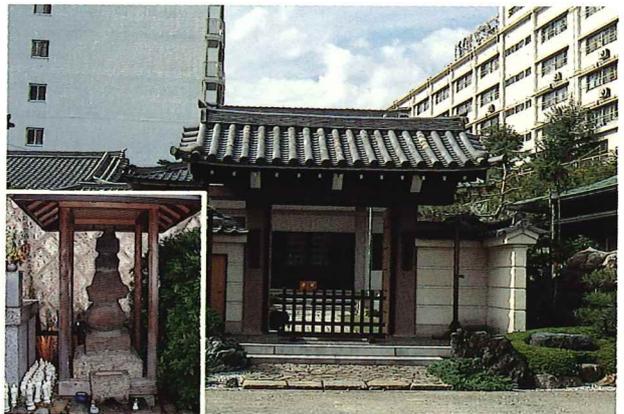
真宗大谷派のお寺です。昔、海西郡立田村にあったのを、住僧了念が元和5年に針屋町筋袋町南西（現中区錦三丁目）に移しました。以来370年間中区の地に在り、平成5年3月に現在地に移りました。

**信貴山名古屋別院毘沙門寺（植園町）**

真言宗信貴山派のお寺です。太平洋戦争終戦後、安藤全信住職により東山公園の一角に建立されました。本尊は毘沙門天および愛染明王です。この愛染明王は平成4年に中区大須から愛染寺をこのお寺に移遷したときから安置されたもので、木像仏の傑作といわれています。



法妙寺



五輪塔

傳光院

**紫雲山法輪寺（植園町）**

真宗大谷派のお寺です。昭和26年に中区から現在地に仮堂が建てられました。本尊は阿弥陀如来立像です。



正敬寺



おまんと  
馬の塔の隊列

### 3 民俗文化財

#### (1) おまんと

「馬の塔」は馬標と呼ばれる札や御幣をたて、豪華な馬具で飾られた馬を寺社に奉獻する、かつて尾張、西三河地方で行われた代表的な祭礼習俗のひとつです。馬の頭とも書き、オマント、オマントウと言っています。村単位で行うほか、合宿（合属、ガッシュク、カシク、ガッシュク）と称して、数十か村が集まって龍泉寺や熱田神宮などへ奉獻することもありました。龍泉寺や笠寺観音に伝わる馬の郷土玩具は、この飾り馬を形どったものですし、絵馬はこの行事の名残です。

龍泉寺合宿（大森合宿）には、旧春日井郡、愛知郡から11か村が参加しました。龍泉寺合宿の起ころは元禄年間の大干ばつの時に、龍泉寺に雨乞いをしたところ、慈雨を得たのでそのお礼に献馬したのが始まりという説と、大森城主築田出羽守が龍泉寺に戦勝祈願したのが始まりという説があります。合宿には費用がかかりますから、実施するのは豊作の年に限られ、作柄を見て大森村が発議し、しきたりにそった回章（回状）を作り、合宿内の村々を順に回して参加の意思を確認しました。中でも、高針村は大森村とならんで4頭もの馬を出し、高針村の態度決定は周辺の村に対する影響が大きかったので特に重視されました。高針村が返事をわざと遅らせて大森村の気をもませたという話も残っています。

当日になると、各村は大森寺前に集合し、大森村を端馬はなうまに、高針村を押馬おきえうま（再後尾）にして龍泉寺に向い、途中、所々で火縄銃を発砲し、龍泉寺境内で棒の手を奉納しました。帰りは順序を逆にして、「駆け分かれ」といって走りながら別れました。11か村の内、現名東区からは藤森村、上社村、一色村、下社村、高針村（往路行列順）の5村が参加していました。

交通事情や産業の変化にともない、現在では「馬の塔」は区内では行われていませんが、平成元年5月に市制100周年名東区記念事業の一環として実施された「おまんと行列」は区民に大好評でした。

交通事情や産業の変化にともない、現在では「馬の塔」は区内では行われていませんが、平成元年5月に市制100周年名東区記念事業の一環として実施された「おまんと行列」は区民に大好評でした。



おまんと  
馬の塔（昭和39年神明社造営記念）



おまんと馬の塔の隊列



(2) 棒の手

「棒の手」は尾張や西三河地方に伝わる民間武術の一種で、約400年前から伝えられてきました。その起こりについては、農民の自衛手段であるとか、神様に捧げる神事芸能であるとされていますがはっきりしたことは分かっていません。さまざまな流派がありますが、どの流派も「手」とよばれる短い動作をいくつも組み合わせ、一つの棒術とします。

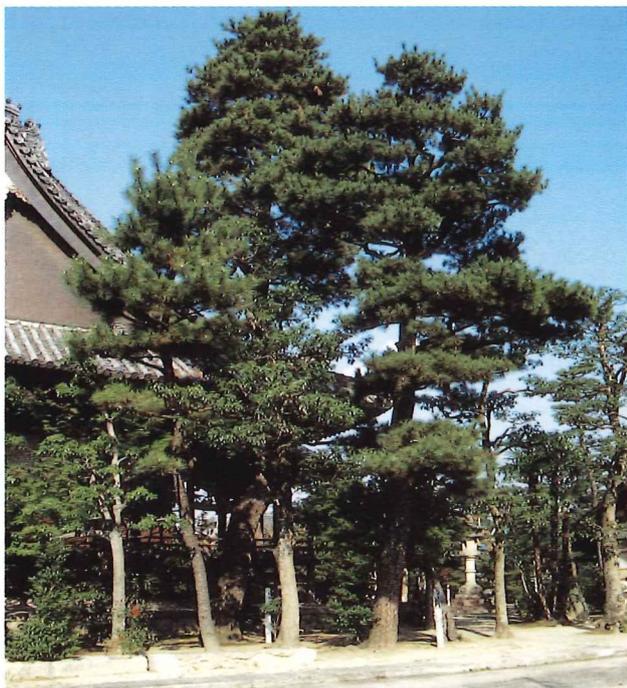
昭和の初めまでは「若い者組」と呼ばれる青年組織があって、棒の手を習得することは若者のいわば義務のようなものでした。技量、人格ともに優れていると認められると、師匠から免許皆伝の巻き物を受け継ぎ、師匠として次の世代を育てました。

古来には棒のみを用いていましたが、刀や槍、なぎなたなども使うようになりました。「馬の塔」には警護隊として棒の手組がついて行くのが通例でした。現在

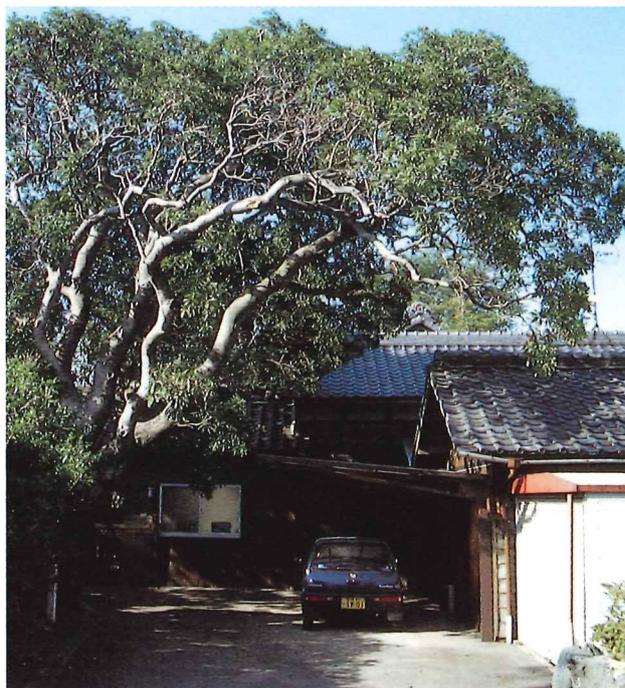
でも秋祭りなどの大切な催し物として、神社などに奉納されています。青年・少年が中心となって2、3人ずつで技を競いますが、時にはカシの木で作られた木刀が折れてしまうほどの真剣さであり、迫力満点です。なお「猪高町鷹羽検藤流棒の手」は名古屋市指定無形民俗文化財となっています。



#### 4 保存樹



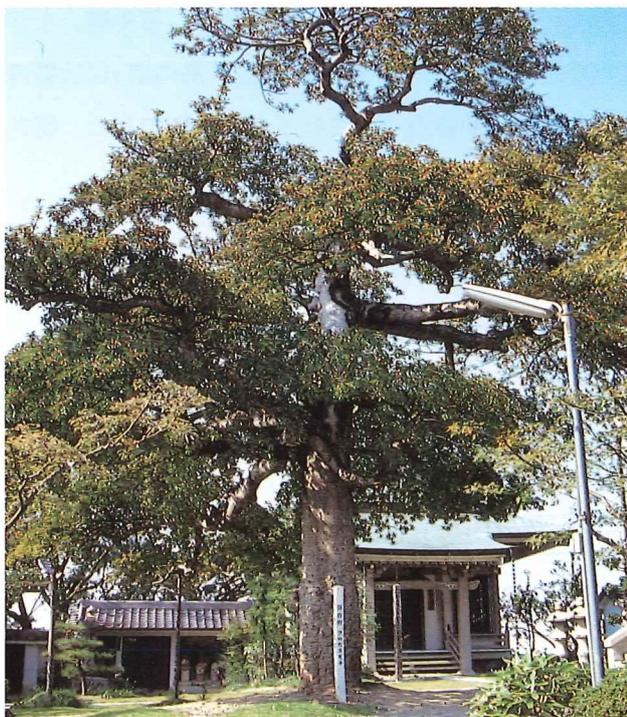
東勝寺のクロマツ



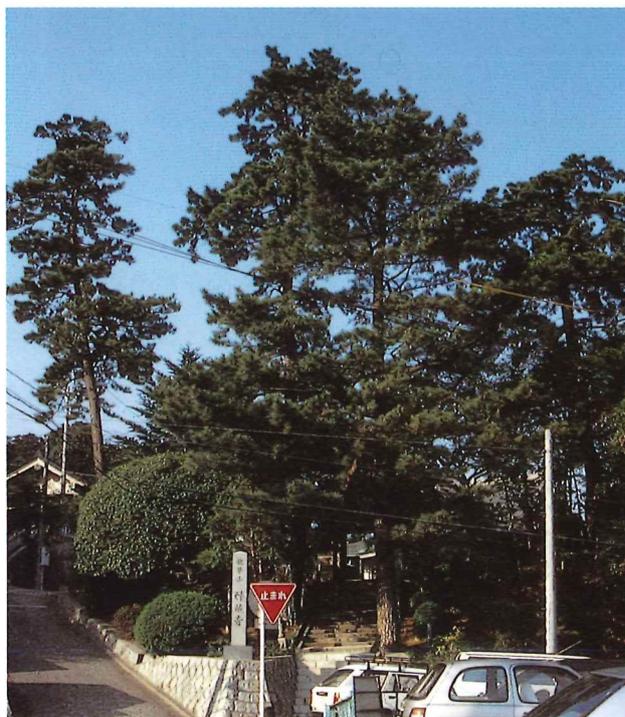
ヤマモモ

昭和48年度から、「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」に基づき市内に残された名木、古木、樹木のうち、都市の健全な環境の維持及び向上に寄与することを目的として保存樹が指定されています。なお、昭和53年度からは、名古屋市緑化推進条例に基づく保存樹（林）の指定も実施されています。

平成5年4月現在、名古屋市で882本が指定され、名東区では30本が指定されています。



観音寺のクロガネモチ



神蔵寺のクロマツ

## 名東区の保存樹一覧

| 指定番号  | 樹種     | 幹まわり  | 樹高  | 所在        | 所有者・管理者 |
|-------|--------|-------|-----|-----------|---------|
| 名東-1  | クロマツ   | 1.88m | 15m | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-2  | クロガネモチ | 1.94  | 15  | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-3  | ヤマモモ   | 2.65  | 10  | 高針五丁目1117 | 大鐘鈔市    |
| 名東-4  | クロガネモチ | 2.00  | 11  | 上社三丁目1601 | 観音寺     |
| 名東-5  | クロマツ   | 1.70  | 16  | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-6  | クロマツ   | 1.84  | 16  | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-7  | クスノキ   | 1.47  | 16  | 神月町602    | 神明社     |
| 名東-8  | クロガネモチ | 1.65  | 15  | 高針二丁目1112 | 高牟神社    |
| 名東-9  |        |       |     |           |         |
| 名東-10 | クスノキ   | 1.96  | 16  | 高針四丁目865  | 蓮教寺     |
| 名東-11 |        |       |     |           |         |
| 名東-12 | アベマキ   | 1.84  | 18  | 高針四丁目865  | 蓮教寺     |
| 名東-13 | アベマキ   | 1.73  | 15  | 神月町602    | 神明社     |
| 名東-14 | クロマツ   | 1.70  | 20  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-15 | クロマツ   | 1.53  | 20  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-16 | クロマツ   | 1.48  | 20  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-17 | クロマツ   | 1.46  | 17  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-18 | クロマツ   | 1.44  | 18  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-19 | クロマツ   | 1.40  | 18  | 一社三丁目11   | 神蔵寺     |
| 名東-20 |        |       |     |           |         |
| 名東-21 | クスノキ   | 1.54  | 10  | 神月町604    | 月心寺     |
| 名東-22 | クロガネモチ | 1.64  | 8   | 西里町3丁目16  | 加藤毅     |
| 名東-23 | アベマキ   | 1.36  | 12  | 神月町602    | 神明社     |
| 名東-24 |        |       |     |           |         |
| 名東-25 | カキノキ   | 1.51  | 10  | 高針五丁目360  | 鈴木啓二    |
| 名東-26 | クロマツ   | 1.50  | 14  | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-27 | クロマツ   | 1.30  | 10  | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-28 | クロガネモチ | 1.34  | 7   | 高針一丁目1212 | 東勝寺     |
| 名東-29 | クスノキ   | 1.46  | 14  | 高針四丁目865  | 蓮教寺     |
| 名東-30 | アベマキ   | 1.43  | 14  | 高針四丁目865  | 蓮教寺     |
| 名東-31 | クロマツ   | 1.44  | 15  | 高針四丁目865  | 蓮教寺     |
| 名東-32 | アベマキ   | 2.20  | 11  | 神月町602    | 神明社     |
| 名東-33 | クスノキ   | 1.45  | 15  | 神月町       |         |
| 名東-34 | クスノキ   | 1.90  | 11  | 神月町       |         |

## 6 史跡

### (1) 古墳

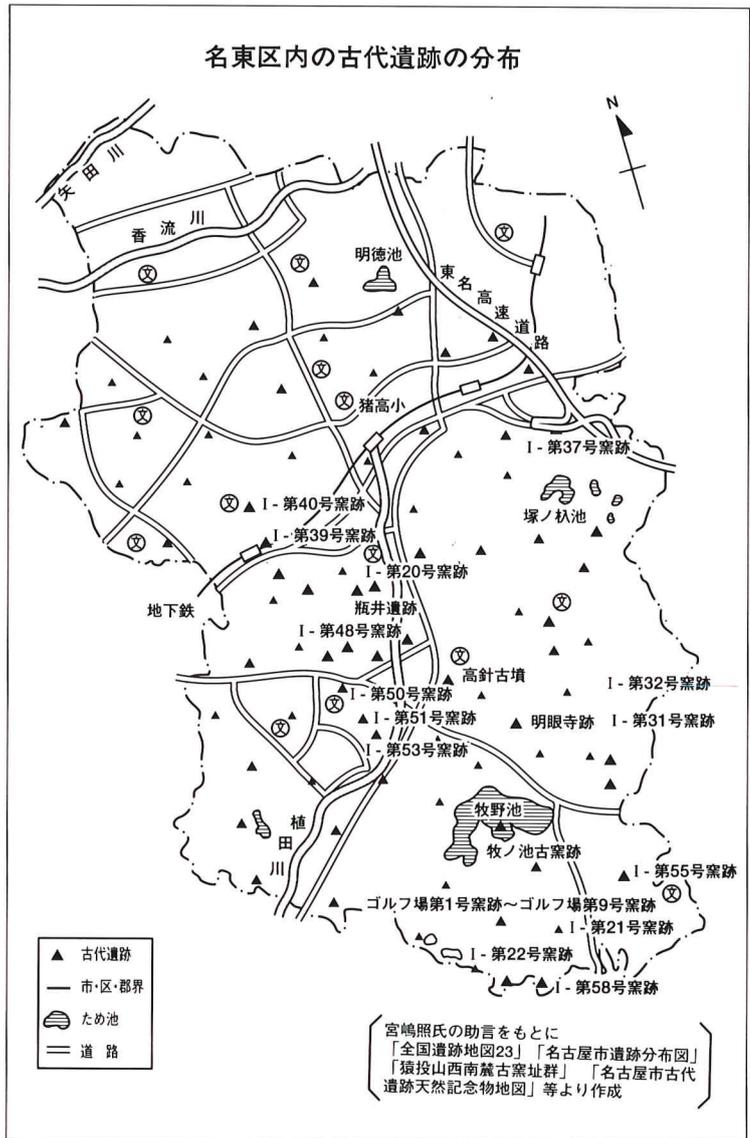
矢田川と香流川の分岐点にあたる猪子石台地は地形上から見て、古代人の居住に最も適した所のように考えられ、何らかの遺跡があってもよいと思われませんが、田畑の耕作によって壊滅したのか、現在では、ほとんど残っていません。

字名の由来とされる猪形の石「猪子石」は、洪積台地にこれほどの大石がでるはずがないので、当然、人によって運ばれ据え置かれたものでしょう。名古屋城の築石を運搬した際の落し物だという説もありますが、やはり古墳の蓋石か、玄室に使った石と考える方が当たっているように思われます。このあたりで最も近い石の出る所といえば岩作の色金山ですが、ここから猪子石までの間に石の祀られている所が4か所ほど、だいたい道の近くにおかれているので、あるいは城を建てるために運ばれたのかもしれませんが。しかし色金山には、家康が腰を下して小牧・長久手合戦を指揮したといわれる床几石がありますが、大正年間その顕彰のため、柵を造る等の工事を進めた際、皿、杯、平瓶等の祝部土器が出たことやそれらの石が祀られているという事からも、落石と簡単に言うわけにはいきません。

和示良神社の参道には、昭和の初期までそれとわかる小さい円墳がありましたが、これとても出土品がないので確定的な事は何も言えません。

南部方面には、それらしい所を指摘できません。高針の東勝寺の西側に円墳がありましたが、東一社に通じる道が出来た時に取り払われたので、今は何もわからないということです。

他に「亀の井」では、縄文時代の甕棺が発見され、瓶井遺跡とよばれました。



(「猪高のあゆみ」より)

(2) 古窯

猪高の窯場は大体東山古窯址群に一括されるものと思われます。それは西山地区にしろ、西一社地区にしろ、東山に近接して窯場が作られているからです。その窯場は現在の東山の稜線を越えて東側まで伸び、西一社では神蔵寺の付近まで進出していますが、それより東にはなく、西山ではあぜみちを越えて牧野ヶ池方面にまで出ています。窯跡の確認は、その付近に多くの陶器の破片が散乱し、茶褐色の灰が厚く積っていることから判ります。その窯跡も現在までの発見では、西山・西一社のものは須恵器で、牧野ヶ池・極楽方面のものは行基焼が主です。

(3) 城址

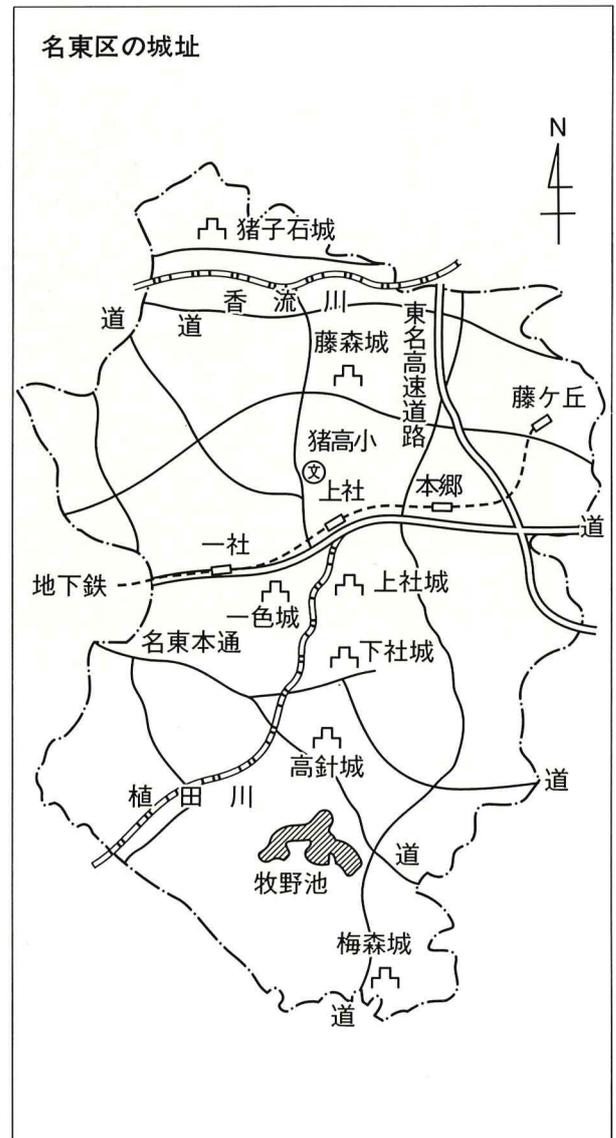
いわゆる、城郭といわれるものは、大体室町時代以降の建築様式です。名東区で城といわれているものは、地方の豪士の屋敷をいい、その部落の地頭格の住居で、「砦」とか「柵」といったくらいのもので、大きな家の周りに濠をめぐらしたほどのものであったと考えられます。

① 一色城

一社三丁目の神蔵寺の東側に、柴田勝重が築城した一色城がありました。この城は、今川氏などを中心とした三河・遠江方面の勢力に備えるために、尾張守護職斯波氏の命令により造られました。小牧・長久手の合戦の折に、豊臣方の先鋒軍によって焼き払われたといわれています。神蔵寺本堂西側には「柴田城群臣先駆之塔」があります。

② 猪子石城

香流川北岸の神明社と月心寺の間に横地主水正の居城とされた猪子石城があったと伝えられています。東西50間、南北60間で二重堀を構えていたとされていますが、現在それを確認できるものは何も残っていません。小牧・長久手の合戦の折に森・池田隊を追いかけてきた徳川隊によって焼かれたと言い伝えられています。



(「猪高のあゆみ」より)

### ③ 上社城

城のあったところが昔は前山と呼ばれていたので前山城とも呼ばれていました。観音寺の古い過去帳に前山城主俗名加藤勘三郎とありますが、この加藤勘三郎は本能寺の変の時に、主人の織田信忠(織田信長の長男)が二条城で自刃したのを、京にたずねたまま行方不明になりました。城のあった小山には「朝日かがやく山椒の木の下に金銀の鳩がいてある。」という黄金伝説が残っています。

### ④ 下社城

陸前町にある明德寺の位置にありました。柴田勝家の誕生地として有名です。古城のなごりの古井戸や勝家手植えの松などがありました。柴田勝家が天正3年(1575)に北ノ庄城に移った時に廃城となりました。



城の藪



下社城址

### ⑤ 高針城

高針城があったのは、「城の藪」と呼ばれる、市バス高針停留所の北側あたりです。東西40間、南北35間の規模で、東部から南東部にかけて幅3間、深さ3間の空濠が竹藪となって残っています。

### ⑥ 藤森城

石が根町付近に、小関三五郎が城主と伝えられる藤森城がありました。小関三五郎は小牧・長久手の合戦の落ち武者で再起をはかってこの地に住み着きました。上社城主加藤勘三郎とも親交があったと伝えられています。城の正確な位置は判っていません。

### ⑦ 梅森城

梅森村にあったこの城は、北城と東城に分かれていました。正確な記録ではありませんが、国立東名古屋病院内の一部は東城址ではないかといわれています。

## 6 風俗

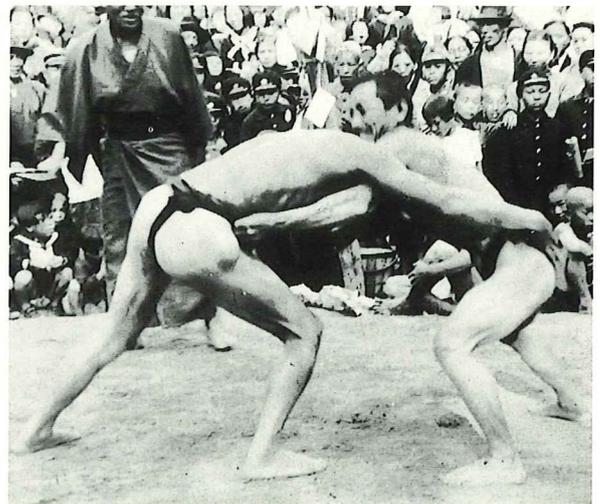
### (1) 祭礼

祭礼は、農業と深く結びついた喜びや祈りを表わしていましたが、社会の変化によって、消えてしまったり形を変えてしまいました。田植えが済んだ休みの日に、早苗を祝う「さなぶり」が行われ、旧暦6月10日（大正末からは7月11日）には、豊作を祈って「天王祭」が行われました。「おんか祭り」は、7月初旬に行われ、子ども達が虫送りをしました。8月14日は、子ども達が地蔵様に花や団子を供えお参りする「地蔵祭（地頭祭）」でした。秋になって、収穫が終わると毎年10月15日は秋祭りが行われ馬の塔を高牟神社、貴船神社、神明社等の氏神様に奉納して豊作を祝いました。また、棒の手を奉納し、相撲大会や餅投げなどが行われました。何時の頃からか「氏神様の秋祭」は、10月10日になり、氏神様に棒の手の奉納はしますが、馬の塔を出すことが少なくなってしまいました。

### (2) 年中行事

年中行事としてこの地域で行われ、現在ではなくなっているものが多くありますが、ここでは、高針地区で行われていた代表的な行事を紹介します。

「正月」。氏神様の参拝とお寺にも年頭に出かけました。お寺様も「お坊様の年頭」といって、各戸を回られましたが、明治の終りくらいから行われなくなりました。「重ね朔日（一日）」。旧暦2月1日のこと。この日を以って旧年の精算と、新年のスタートとする区切りの日で、厄祝、祝言の披露など一切を兼ねた慶祝日でした。「さなぶり」。田植えが終わった後の農休みのことを「さなぶり」と高針で称していました。「祇園」。旧暦6月16日、仕事を休んで一日遊んだ日。子どもは飼っていた虫を逃がす日であり、水泳ぎを禁止された日です。「土用干し」。7月に入って天気の良い日を見計らって、祭礼の仕器、「馬道具」と「馬標」の土用干しをしました。「九万九千日」。旧暦7月10日は、観音様の縁日に当り、この日参拝すると九万九千日参拝したのと同じ御利益があるとの謂れであり、この日は、村の夏祭りで「草相撲」が催されたりして、村を挙げての享楽日でした。「盆」。旧暦の7月14・15・16日は盆で、旧正月と並んで最大の享楽日として楽しみました。済松寺の境内では、盆踊りを夜の更けるまで踊り抜きました。「うらぼん」。旧暦の7月24日は地蔵さんの命日で、お盆の最後の日として、仕事を休んで遊んだものです。「道役」。10月1日。各戸から人を出して、道の改修を行う日。「山の講祭」。数え14歳の者を頭に7歳から13歳までの子どもが、旧暦2月7日には記念の植樹をし、旧暦11月7日には子どもの神様の「山の神」に供物を供えて参拝し、「どんどこ」に火をいれました。明治の終り頃には、この風習もなくなっていました。「お講様」。秋の収穫が片付くと準備にかかり、講仲間に参詣してもらって「御開山上人」の供養を営みました。



高牟神社奉納相撲

## 第2章 人物と伝説

### 1 人物

#### (1) 武将・武人

##### ① 柴田勝家

信長の臣下の数ある勇将の中で「瓶割り柴田」の名を以て、天下にその勇名を轟かせた「柴田勝家」は享禄3年（1530）下社城（現 明德寺）の生まれで、信長より4歳年長です。

13歳の初陣に際し、松を植え「初陣に松一本手植えして 負ければ墓地のしるしとやせむ」の一首を詠んで、母に渡して行きました。明德寺境内に最近まであった老松がそれであるといわれていました。

「瓶割り柴田」の話はあまりにも有名で、これは勝家がただ単に猪突猛進の武将でなく、軍略知謀の将であったことを物語るものといえます。天正11年（1583）秀吉に賤ヶ嶽の合戦で破れ、越前北ノ庄で最後をむかえました。

勝家は、「鬼柴田」、「夜叉柴田」の異名により、武遍一辺倒の猪武者であったように伝えられていますが、その生涯を貫くものは、実に義であり、情であり、そして文雅の道もわきまえた智勇兼備の武将であり、領民に対しては深く民政に意を用いた政治家でした。



柴田勝家像

##### ② その他の武将・武人

「猪子才藏」は猪子石出身で、40回を超える参戦とその働きによって武勇の名を得た猛将。「柴田源六勝重」は、一色城主で神蔵寺を建立、神蔵寺草創開基として祀られました。信長より「大鐘」の姓を賜った「大鐘藤八」。猪子石の出身で信長の軍使として活躍した「猪子兵助」。上社の出身で勝家の家臣「上村六左衛門」。「横地秀種」は植田城主で、痔塚神社の祭神として祀られています。「肥田孫左衛門」は、猪子石村、猪子石原村の領主です。

#### (2) 宗教家

高針出身の「加藤秀純」は、小牧・長久手合戦で消失した龍泉寺の再興を図り、中興の開山となりました。秀純の甥の「加藤俊秀」は、秀純の後を継いで龍泉寺の住職となり、中興二世となりました。

治山治水に力をいれ、新田開発に功があり、寺子屋の師匠でもあった「天中和尚」は、六代目神蔵寺住職で山門を建立、のち肥後天草の東向寺の住職となりました。「鼎三和尚」は、遠州秋葉寺を再建し、中興の祖となりました。

### (3) 篤行家

#### ① 勝野太郎左衛門

郡奉行勝野太郎左衛門は高針の地を巡察し、この地はほとんど畑地で打ち続く干ばつで作物は枯死し、村民は疲弊の極に達していることをつぶさに知るや、深くこれをあわれみ、救民のために池を掘ることを画策し、村民も勇んで労務に出役し、数年を要して大堤防を構築し、ここに勝野氏生涯の大事業が完成しました。時に、正保3年(1646)の春で、この池を名付けて「牧ノ池」としました。

高針村民が、高針牧ノ池掘削の大恩人として敬い慕い、大正8年3月、牧ノ池畔の西方丘陵上に「頌徳碑」を建立しました。



勝野氏頌徳碑

#### ② 柴田徳右エ門

下社村で生まれる。高針川上流の向田から後田下、下打越と下社村陸前に至る灌漑用水路を、一色村の柴田与右エ門と計らい、自費を投じて完成したと伝えられています。

### (4) 教育者

「菊田縫之丞」は猪子石村生まれ。猪子石寿宝院の住職。明治5年、学制がしかれ香流学校の最初の教師となり、以来56年間教育に尽くしました。大正3年5月「菊田先生の碑」が香流川の南、行者堂のほとりに建立され芳名は永遠にこの地に留められることになりました。



菊田先生の碑

「原栄吾」は猪子石原の私学校で児童に人道、文学を教えました。原栄吾の碑は、薬師堂境内にあります。

「柴田吉太郎」は、東加茂郡足助町出身。明治31年高針尋常小学校校長として赴任し、高針の教化改善に貢献しました。



原先生の碑

### (5) 自治功労者

「加藤貞助」は明治31年推されて郡会議員になり、以来県会議員に当選、明治39年猪高村長に推され、明治44年まで合併当初の難局に当たりました。嗣子「久太郎」も前後9年間猪高村村長として村政に尽力しました。

## 2 伝説

### (1) 小牧・長久手合戦の伝説

合戦地の長久手町には、合戦にまつわる伝説と考えられるものがほとんどなく、隣接する地域の猪子石、上社、高針と長久手町との境界線に沿って発生していることは、まことに興味深いところです。

#### ① まねき松

猪子石新田の宮根山の松の俗称で、この松の下から、先に来て形勢を見ていた殿様が家来に「こっちだ、こっちだ」とまねいたといわれています。

#### ② あけ坂

敵陣を偵察するため未明この坂に来て、夜の明けるのを待つて山に登って行った。それでこの坂を夜明けを待つ坂、明け坂といいならわし、後になって赤坂に転化したものといえます。

山は斥候山ともいい、付近に物見塚という所もあります。

#### ③ うとう坂

位置ははっきりしませんが、敗残兵が逃げて来たのでこれを追撃した兵が、ここで「鉄砲を打とう」といったのがこの坂の名のもとになり「うとう坂」といいならわしています。

#### ④ おこり松

長久手合戦の落武者の隊長、小関三五郎は恨みを残して世を去りました。里人は居所に小関塚とし松を植えその印としました。その後、心なき人々によって塚はこわされ、松は伐採されるに至りましたが、そうした者は不思議と熱病になるので、里人は、この松を「おこり松」として敬遠していました。里人は、この松の麓に碑を建てて小関の霊を慰めました。

#### ⑤ その他

- ◇ 高針の極楽山は、敗残兵が山を越えてこの山に隠れ、命を全うしたから「極楽」といわれます。
- ◇ 血戦ものすごく、川は血で真赤に染まって「血流川」の名がついていましたが、それがいつしか香流川という風雅な名になってしまいました。
- ◇ 猪子石原の畑では馬の足跡や刀の鏝のあとが見えるとか。
- ◇ 夜中に田んぼの塚に、赤い火が燃えるとか。
- ◇ 「兜塚」は長久手合戦の戦死兵の塚といわれています。



兜塚

### (2) その他の伝説

- ① 猪子石を動かして崇りで熱が出た「いのこし」伝説。
- ② 香流川の神に助けられた少女の話。
- ③ 巨人のだだ法師が残した「だだの足跡」。
- ④ 名古屋城が築かれた時、清正が置き忘れていったという「清正の忘れ石」。
- ⑤ 古狐伝説「マイマイ坂」。
- ⑥ 猪高の里の若い女性「そのえ」が主人公の「猫ヶ洞のねこ」伝説。

### 3 民謡と童唄

子どもの頃の思い出、幼なじみと唄った童唄、毬をついて唄った数え唄。四季折々の風情を高らかに、男女の恋情を切々と、仕事の労苦をとつとつと唄う民謡、歌謡は時代とともに生まれては消え、消えては生まれてきますが、これら童唄、数え唄や民謡は、社会の変化により、生活様式の変化に従って忘れ去られていくようです。当地域では多くの童唄や民謡が唄われていましたが、大正の初め頃から次第に唄の流れも聞かれなくなってしまいました。

#### (1) 童唄・数え唄

童唄には遊びに伴うお手玉唄、手合せ唄、手毬唄、鬼遊び唄、生活の中から自然に生まれた子守唄、子あやし唄、盆踊り唄、ざれ唄など豊富にあります。

- ① 口謡 田の中・どじょう汁・ほたるこい・あめふり・かあらす・正月三日・があつがつ
- ② 小あやし唄 しまったらしたら・熱田さま・狐の目狸の目・へこきむしの唄・おっ月さま
- ③ 童戯唄 ちゅうちゅうねずみ・つぼどん・お嬢さん・ひいらいたひいらいた・かごめかごめ
- ④ お手合せ唄 たいのこたいのこ・たより・西の山から・一でたちばな
- ⑤ お手玉唄 とうふ屋のかみさん・綿帽子山・おしろめさん・花嫁子・いちかけにかけ
- ⑥ 手鞠唄 いちじくにんじん・一番はじめ・大黒様・正月え・いちおいてまわれ
- ⑦ ざれ唄 がぁろのうた・ほうじろのうた・ふくろうのうた・もずのうた
- ⑧ 尻取り唄 李鴻章・陸軍の・ダイヤは高い
- ⑨ 雑戯 くじ引き唱え唄・へらへらの神様・やけどの呪文・針探しの呪文

#### (2) 古謡

時節により場所により、喜びをまた労苦を唄ったのは、労働歌や祝い歌などの土地の民謡でした。

- ① 田植唄・田の草採り唄
- ② 唐臼挽き唄・粉挽き唄（てこうす挽き唄）
- ③ 米搗き唄（だいがら唄）
- ④ 藍絞唄
- ⑤ はた織り唄・糸紡ぎ唄（十三の子のうたう・十六の子のうたう・十九の子のうたう）
- ⑥ 手仕事唄（山しろさま・中将ひめ・嫁ごろし・井筒屋の娘・京屋の娘・すすきもんど）
- ⑦ 馬方唄・鉾夫唄・ポンプ押し唄
- ⑧ 木遣唄
- ⑨ 上棟式祝儀唄
- ⑩ かぞえうた（色じゃないぞえ）
- ⑪ 盆踊り唄（かんすばい・なぐりこみ・手切子踊り・ざい踊り唄・三わけ踊り・せんす踊り）
- ⑫ 名古屋甚句・神戸節・伊勢道中音頭
- ⑬ 嫁入り唄
- ⑭ 阿法陀羅経

